



卷頭特集 ～英語の指導と評価～

影浦 攻 (鹿児島純心女子大学 副学長・教授／宮崎大学名誉教授)

2017年に告示された学習指導要領は、我が国の英語教育の指導や学力観に大きな変化をもたらすことになるでしょう。新たに示された英語の学力観は、①音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて理解するとともに、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。(知識・技能の習得)、②身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを伝え合ったりすることができる基礎的な力を養う。(思考力・判断力・表現力等の育成)、③主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等の涵養)の3点です。

これまで日本の英語教育は、ジグソーパズルに似て、言語材料の1片1片を苦労しながらはめ込んで行く(言語材料の一つ一つを徹底して指導することによって、やがて自然にマンハッタンの美しい夜景(総合的な英語力)が眼前に広がり、その素敵なか夜景を楽しむ(英語を上手に使える)ことができると思っていることから、私は「英語教育のジグソーパズル化」と呼んでいます。しかし、これまでの英語教育の成果からそんな美しい夜景は出てこないことから、これは単なる幻想であると思います。

言葉は、言語材料の1片1片をマスターしてからでないと使えないというものではなく、英語を実際に使いながら言語材料の1片1片を身に付けていくものです。たとえ最初は不完全であっても、使っているうちに、言葉の意味や使い方や言葉の背景などが見えてきます。言葉は使うことによってしか身に付かないものです。

英語の指導に当たって、単独の1片の言語材料の知識(知識・技能)を習得し、また別の1片の知識をどう関係付けて広げていくかということ(思考力・判断力・表現力等)が重要になってきます。更に結びついた複数の知識が広がって新しい知識や運用力や知恵を生み出していくこと(学びに向かう力、人間性等の涵養)が求められています。

美しいマンハッタンの夜景を生み出すために指導を改善しながら、更に指導の効果を高めるための評価を工夫して英語教育の改善を目指しましょう。

1. 評価のねらい

(1) ねらいと評価を合わせる。

評価には、教師の観察、子どもの自己評価、音声を中心としたペーパーテスト、パフォーマンステストなどがあります。いずれの場合であれ、授業のねらいと評価を合わせることが大切です。

授業では子どもの積極性を引き出すねらいから「間違ってもいいよ」と言いながら、評価の段階では間違いの部分の点数を引いていくという、実際の授業と評価が別の方向を向いている場合を多く見受けます。指導と評価が違う方向を向いているとお互いに引っ張り合って指導の効果は期待できないものです。

(2) できるようになったことを認識させる。

評価をする際に、子どもが学習した語句や表現を分かり、またそれを使えるようになったと自分で感じることが大切です。そのことが英語に対する自信を持つことにつながります。子どもの英語が分かったという気持ちと使えるという自信は進歩への大きな励みになります。

(3) 習った表現をどのような場面で使いたいかを考えさせる。

英語が使えるということは、英語の音や語順や構文や意味だけでなく、その英語が使われる場面や働きを理解することです。

評価の際に、ワークシートなどを使って今日学習した表現をどのような時に使うかを書いて確かめるのも子どもに学習した表現を意識させることになります。

(4) 子どもが興味のわいたことを調べさせる。

授業を通して子どもが興味を持ったこと、もっと知りたいことや疑問に思ったことや感心したことなどを授業の終わりに表現させることも大切なことです。そ

して、更に子どもが自分でコンピュータや辞書などを使って、あるいは保護者に聞くなどして、調べたり確かめたりする機会を与えることも評価の大きな役割です。

(5) 子どもの評価を次の授業に生かす。

子どもの評価や教師の観察などを通して、当該の授業の評価だけでなく、その結果を次にどう生かすかが大切です。次の時間に子どもの理解が難しかったと思われる事項の復習をしたり、子どもが調べてきたことを発表させたり、子どもにもっと自信を持たせるための活動を組入れるなどすることで評価を生かすことになります。

2. 評価の方法

(1) 教師の観察

評価の基本は、教師による観察です。教師は子どもの理解度や積極的な発表の態度や授業への参加の意欲や子どもが使う英語の質や量などを総合的に評価することになります。

評価に際しては、教師は子どものこれらの項目について気づいたときにちょっとメモをしておくことをお勧めします。それも1時間に全員の子どもについてメモを取るのは無理ですので、2～3人の気付きをメモし、その作業を何度も繰り返すうちに、1～2ヶ月の間に全ての子どものよいところをメモし、それらを学期末に総合して評価すればよいです。

(2) 子どもの自己評価

子どもは教師が準備する評価シートなどに感想や自分なりの評価(◎マーク、○○△など)を記入したり、自分の言葉で記入したりすることになります。

子どもの自己評価と教師が見た客観的な評価に差が



PROFILE

影浦 攻 かげうら おさむ (鹿児島純心女子大学 副学長・教授／宮崎大学名誉教授)

広島大学卒業。教諭(鹿児島中央高校、広島大学附属中・高校、鶴丸高校)、鹿児島県教育庁指導主事、文部省(当時)教科調査官、宮崎大学教授(その間、附属中学校長、附属小学校長を兼任)の後、鹿児島純心女子大学学部長を経て現職。

『小学校のえいご1～3』(啓林館)、『新しい時代の小学校英語指導の原則』(明治図書)、『改訂英語新授業の実践モデル20』(明治図書)、『小学校教師の基本教室英語96選』(明治図書)、『小学校英語ハンドブック』(監修) (啓林館)、他多数。

あっても構いません。教師から見て少し足りないと思われる子どもが「自分はできる」という自己肯定感が強い子どもであれば、それがきっかけで英語に自信を持つようになればそれでよいし、むしろ教師から見て優れているのに、「自分はできない」という評価をする子どもへの励ましや客観的なアドバイスをする必要があります。

(3)パフォーマンス評価とルーブリック

英語の評価の場合、子ども同士のインタビューゲーム、絵や写真を友達に見せながらの発表などの多くの場面で、子どもの発表の態度や内容を評価することができます(パフォーマンス評価)。

その際、どの程度できたらA～Cとするなどと評価基準を決めておくための一覧表(ルーブリック)を予め作っておくと、子どもの発表に対する評価の基準がぶれなくてすみます。

(4)ペーパーテスト

小学校の英語も将来的にはペーパーテストも導入されるでしょう。その際に、あくまでも音声を中心に問題を作成することが望まれます。

ペーパーテスト作成の基本は、出題方法として「絵を見せる」「音声を聞かせる」「文字を見せる」があり、解答方法として「絵を選ぶ」「文を選ぶ」「文字を書く」があります。これらの組み合わせで、色々な難易度の違った問題ができます。

いくつか例を示しましょう。

- ・英語を聞いて内容を表す絵を選びましょう。
- ・アルファベットを聞いて線で結びましょう。どんな動物がでてくるかな。
- ・絵を見ながら英語の質問に答えましょう。答える文を選びましょう。

(5)ポートフォリオ

ポートフォリオとは、子どもが学習の過程で残した自己評価のワークシート、活動を促すための補助としてのワークシート、子どもが用意した絵や写真などの作品、ペーパーテスト、通知表、レポート、活動の様子を残した動画や写真などをファイルに保存する評価方法です。ペーパーテストで測れない個人能力の総合的な学習評価方法であり、子どもやその家族や教師も含めて子どもの知的な成長を見守ることができます。

(6) Can-Do テスト

Can-Do テストは、「学習者が英語で具体的にどのようなことができるのか」を表したCan-Doリストに従って、評価を試みるものです。

リストを作成する際は、表現を具体的に示すほうがよいです。例えば、「日常生活に関する簡単な質問をしたり、簡単な質問に答えたりすることができる。」という抽象的な表現よりも、当日の目標を具体的に表した「好き嫌いを尋ねる What food do you like? を聞いて、I like pizza. などと応答することができる」などと明確にすることによって、教師にも子どもにも授業のねらいと評価の目標が分かりやすくなります。

評価は、これらの様々な評価の方法から得られた結果を組み合わせて観点別評価や所見として表記することになります。



【引用・参考文献】

- ・影浦 攻(2019)「英語授業活性化を促すチェックリスト25」『理科 啓林』No.20 (啓林館)
- ・文部科学省(2017)『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』

小学校英語における評価方法

～形成的評価を活用した評価の具体例～

町田 智久 (国際教養大学専門職大学院・准教授)



1. はじめに

小学校英語の全面実施まで1年を切りました。評価について文部科学省から具体的な方針が示されない中で、不安を感じている先生方もいらっしゃると思います。今回は少し先取りして、小学校英語での効果的な評価方法について解説していきます。

その前に、まず皆さんに質問です。学生時代に受けた英語の授業を思い出して下さい。「どのような評価方法でしたか?」また、「自分の自信につながる評価はありましたか?」色々な研修会でも同様の質問をしますが、「中間・期末試験などのテスト」で評価された先生方が多いように思います。また「発音をほめられた」や「アドバイスをもらえた」など、嬉しかった体験で自信をつけた先生方も多いようです。大人であってもほめられれば嬉しいものです。まして英語を学び始めたばかりの児童であれば、なおさら先生からほめられたいものです。新しい学習指導要領(2017)では「指導と評価の一体化」が掲げられています。これは、今までの英語教育のように指導と評価を分けるのではなく、指導を評価に生かし、評価を指導に生かしながら、子どもたちのコミュニケーション能力を育んでいくことを意味します。つまり、子どもたちの良いところはほめ、足りないところはアドバイスを与えながら、次の指導に組み込んでいくのです。そうすることで、児童は達成感を感じながら英語を学べますし、先生方も指導に充実感を得ることができます。小学校における評価の基本は「教師も児童も幸せになれる評価」を目指すことです。

ここで評価方法について少し解説します。評価は大きく「総括的評価」と「形成的評価」の2つに分けられま

す。「総括的評価」は中間・期末試験のように、一定期間に指導目標をどの程度達成したか(どれだけ覚えたか)を測る評価です。「形成的評価」は、指導が適切かどうかを指導途中で測る評価です。授業中の観察(見取り)やインタビュー、発表や自己評価などがこれにあたります。小学校段階では、圧倒的に形成的評価が中心となります。「読み・書き」が含まれるとはいえ、「聞く・話す」が中心のコミュニケーション主体の授業をするわけですから、評価も自ずとコミュニケーション主体の形成的評価になります。研究者のShin & Crandall (2014) は評価のポイントについていくつか挙げていますが、その中で重要なのは「学習を反映させること」と、「継続的に実施すること」です。つまり、中間・期末試験のように一発勝負で評価するのではなく、普段の授業中の活動を通して、何度も繰り返し評価していくことが大切になります。

でも、どうやって?と思われるかもしれません。そこで今回は、小学校英語の検定教科書である『Blue Sky elementary』(啓林館)の5年生版・Unit 3を参考に、観察場面での①フィードバック、②チェックリスト、③ルーブリックを使った評価方法について具体的に解説していきたいと思います。

2. フィードバック

授業中に児童のやり取り(教師対児童や児童対児童)を観察し、ほめたり改善点を伝えたりするフィードバック(児童に対する指導・助言)を行いながら、各児童のコミュニケーション能力を評価します。その際に必要なのは、班ごと、または列ごとの児童名簿(図1参照)です。教師は手元にその児童名簿を持ちなが

PROFILE

町田 智久 まちだ ともひさ (国際教養大学専門職大学院 准教授)

1970年東京都生まれ。米国イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校大学院修士課程修了(英語教授法専攻)及び、同博士課程修了(初等教育専攻)。博士。東京都の公立中学校に英語教諭として12年勤務後、退職し留学。帰国後、国際教養大学英語集中プログラム講師を経て、2015年より現職。秋田県教育委員会をはじめ県内・県外の様々な自治体や民間企業と協働しながら、小学校英語教員研修を実施。主な著書に、「小学校外國語教員研修用キット」(啓林館)、「Keirinkan Science Readers」(啓林館)、「Explore Our World 1:指導案集」(センゲージラーニング)など。



ら、やり取りを評価していきます。本時の授業で見取らなかった(又は見取れなかった)児童の欄には斜線を引きます。大切なのは、1回で全員を見取ろうとしないことです。TTと一緒に使う先生にも協力してもらいながら、複数回の授業の中で全員を見取るようにしていきましょう。

図1：フィードバック用の児童名簿例

| 名前 | 日付 | 4/23 | 4/26 |
|-------|----|------|------|
| 秋田花子 | + | | |
| 宮城大祐 | - | | |
| 長野さくら | ✓ | | |
| 大江戸良太 | + | | |
| 大阪あかね | | | ✓ |
| 長崎優斗 | | | + |

Part 1のChant(図2参照)では、「What time do you get up?」「I get up at 7:00.」という表現を学習します。それを受け、教師は数名の児童に「What time do you get up?」と尋ねます。

図2：Chant (時間を尋ねたり答えたりする)



その際に、教師は「時間を尋ねる質問に適切に答えられる」という評価基準を自分の中で設定します。それに沿って、児童の返答を「+(優れている)、✓(基準に到達)、- (改善が必要)」の3段階で評価していきます。例えば、児童が「I get up at seven」のように、

質問に適切に答えられれば、「Great!」と言って名簿の児童の名前の横に「+」を書き入れます。では、次のように児童が答えた時には、どのように評価しますか？

教師：Sakura, what time do you get up?

児童：Six.

この場合、児童(長野さくらさん)は質問の意味を理解し、自分の起床時間についても伝えています。もちろん、文法的には前置詞の「at」が必要ですし、単語でしか答えられていません。しかし、意思疎通のチャッチャボール(=コミュニケーション)になっている点で、私は基準に到達していると判断し、「Good!」や「Good job!」と声を掛けて、名簿に「✓」を付けます。ここで多くの先生方がする間違いは、「NO. NO. I get up at six.」と言ってしまうことです。より適切な表現を教えるという気持ちがまさり、言い直してしまった場合をよく見ます。言い直しは効果的なフィードバック方法ですが、ここでは違います。先ほども述べましたが、「指導と評価の一体化」が求められているため、まずは児童ができる事を把握し、認める必要があります。その上で、ベストの答えをさりげなく伝えることが大切です。最初から完璧を求めるか、児童も教師も苦しくなります。もし、多くの児童が正しく答えられていないようであれば、次の授業で補足する必要があります。先ほどのさくらさんとの対話では、先生方が次のように応答できると素敵ですね。

教師：Sakura, what time do you get up?

児童：Six.

教師：Good! At six. You get up at six.

3. チェックリスト

ここでは、より細かい表現や技能に焦点を当てて、児童の英語能力を見取っていきます。Part 2のThink and Say（図3）では、家での仕事の表現（Set the table, water the flowersなど）と頻度を表す表現（alwaysやsometimesなど）を共に使いながら、自分の日常のお手伝いの様子について言い表します。

図3：Think and Say（家での仕事や頻度）



その際、先ほどどのフィードバックで使った名簿に見取りたい表現や技能を加えたもの（図4）を用意します。これらの表現や技能は、教科書の指導書等で示されると思います。

図4：チェックリスト用の児童名簿例

| 目標／技能 | 秋田花子 | 宮城大祐 |
|---|-------|-------|
| 家での仕事の表現を使って答えられる（take out the garbage） | + 6/7 | ✓ 6/7 |
| 頻度を表す表現を使って答えられる（always, often, never） | + 6/7 | - 6/7 |
| Yes/No-Q を使って質問できる | 未使用 | + 6/7 |
| Yes/No-Q に答えられる | + 6/7 | 未使用 |

教師は児童がペアワークやグループワークをしている様子を、机間指導をしながら見取っていきます。先ほどと同様に、いっぺんに全員を見取ることはできないので、その日に注目する児童の列や班を絞ります。

次の2人の児童（秋田花子さんと宮城大祐さん）の会話例を参考に考えてみましょう。

大祐：Do you help at home?

花子：Yes, I do. I always take out the garbage.

How about you?

大祐：No take out the garbage.

この場合、花子さんは、「I always take out the garbage」と言っているので「家での仕事の表現」と「頻度を表す表現」の両方を適切に使っています。そのため、「+（優れている）」という評価をそれぞれの欄に記入することができます。また、Do you ---? ではじまるYes/No Questionに対しても、適切に「Yes, I do.」で答えられているため「Yes/No-Q に答えられる」の欄も「+」です。一方、大祐さんは「家での仕事の表現」（この場合は、take out the garbage）を言うことはできますが、主語の「I」がないため適切な自己表現として使っているとは言えないので「✓（基準に到達）」とします。さらに、「頻度を表す表現」（この場合は、never）は使えていませんので、名簿には「-（改善が必要）」を記入します。文頭で「No」と言っているので、ゴミ出しをしていないと言おうとしている気持ちは分かりますが、英文としては適切ではありません。それから、観察した日付を名簿に加えることで、児童全体の学習の傾向を理解するのにも役立ちます。

児童は同じような活動を通じて、何度も目標表現を使う機会があります。児童の一回の発話で全てを聞き取って評価しようとはせずに、先生方は何回も聞く中で評価していくことが大切です。焦らず、ゆっくりで大丈夫です。



4. ループリック

ループリックとは、「話す」や「書く」活動における到達基準表です。ループリックを活用した評価は、民間テストのTOEFL® や大学のライティングのクラスでも一般的です。小学校英語での到達基準は、学習指導要領に沿って決めるといいと思います。ここでは、Part 3のLet's Read and Write 3の、アルファベットを聞いて書く活動を取り上げます(図5)。聞き取るフレーズは、「F. F, f, f, Friday. F, f, f, five.」です。

図5：Let's Read and Write(読んだり書いたりする)



学習指導要領では書くことについては、「大文字・小文字を活字体で書くことができるようとする」と示されています。そこで、ループリックでは「大文字と小文字を区別して書いている」「文字の形が合っている」「四線の高さに注意して文字を書いている」「文字の間にスペースを入れずに単語を書けている」「単語が正しくつづれている」等の項目が考えられます。各2点配点とし、児童の書いたものを評価していきます(図6)。

図6：ループリックの例

| 書く活動 | |
|---------------------------|----|
| 得点 | 点数 |
| 1. 大文字と小文字を区別して書いている | 2 |
| 2. 文字の形が合っている | 2 |
| 3. 四線の高さに注意して文字を書いている | 2 |
| 4. 文字の間にスペースを入れずに単語を書けている | 2 |
| 5. 単語が正しくつづれている | 2 |
| 合計 | 10 |

ここで大切なのは、採点する教師が一貫性を持って全員の書き取りを評価することです。多少甘くとも、厳しくても、全員に同じ基準で付けられていれば問題

ありません。ループリックに沿って一貫性を持って採点することで、信頼性のある評価につながります。また、ループリックは課題として提出させる時の評価にも有効です。このループリックに従って、各児童の書いた英語(英文)を評価し、子どもたちの「書く」能力を見取っていくことができます。

5. まとめ

評価については、文部科学省から具体的な方針が出されていないのが現状です。しかし、形成的評価が中心となるのは、世界の児童英語教育の流れからいっても間違いないと思います。特に、観察を通した見取りが大変重要になります。国語や算数のように、先生方が内容を熟知した状態で指導や評価ができないのが、英語だと思います。しかし、焦る必要はありません。日々の英語の授業を通して、先生方も「指導しながら」「評価しながら」成長していかなければよいのです。その積み重ねで、徐々に英語の評価のコツがつかめてくるはずです。完璧を求めず、先生方にとっても「幸せな」評価をしていくことが大切だと思います。まずは、数名の児童を見取ることから始め、TTと一緒に行う先生方やALTとも協力しながら、数回の授業で全員を見取るようにしてみて下さい。



【引用・参考文献】

- Keirinkan. (2019). Blue Sky elementary. 新興出版啓林館
- 文部科学省. (2017). 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説：外国語活動・外国語編。
- Shin, J. K., & Crandall J. J. (2014). Teaching young learners English: From theory to practice. Boston, MA: National Geographic Learning.

何をどう評価する?

~学習や指導に生きる評価~

牧原 勝志 (鹿児島県日置市立中央図書館・館長)

1. 評価の考え方の基本

学習評価は、子どもが自らの学習状況を振り返り、今後どのような学習が必要かを考えるなどの学習改善につながるものであることと、子どもの学びの状況から教師自身の指導法の改善や授業展開の工夫・充実につながるものであることが重要です。

今回の学習指導要領の改訂で、各教科等の目標や内容が「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力・人間性等」の資質・能力の3つの柱で再整理されたことを踏まえて、観点別の学習状況評価についても、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で、目標に準拠した評価として3段階(ABC)で実施することになりました。

目標にある「学びに向かう力・人間性等」は、評価の観点にはそのまま用いられてはいません。これは、感性とか思いやりなど観点別学習状況の評価や評定には示しきれない部分があり、個人内評価を通じて見取るべきものと考えられたからです。

小学校外国語活動・外国語科においても、今後はこの考えを基にして、学習指導、評価が行われていきます。

以下は、文部科学省発行の学習指導要領解説にある「外国語活動・外国語の目標」の学校段階別一覧表の一部です。評価は、この目標に準拠して観点別に実施することになります。

| 目 標 | |
|--|---|
| 小学校第3学年及び 第4学年 外国語活動 | 小学校第5学年及び 第6学年 外国語 |
| 知識 及び 技能 | 外国语によるコミュニケーションにおける見方考え方を働きかせ、外国语による聞くこと、話すことの言語活動を通してコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次の通り育成することを目指す。 (1)外国语を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国语の音声の違い等に気付くとともに、外国语の音声や基本的な表現に慣れ親しむようする。 |
| 思考力 ・ 判断力 ・ 表現力 | (2)身近で簡単な事柄について、外国语で聞いたり話したりして自分の考え方や気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。 (2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国语の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考え方や気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。 |
| 学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 か う 等 | (3)外国语を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国语を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 (3)外国语の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国语を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 |

PROFILE

牧原 勝志 まきはら かつし (鹿児島県小学校外国語活動・外国語科研究会 前会長・現顧問)

鹿児島県日置市立中央図書館長。昭和33年生まれ。鹿児島県出身。公立小学校教諭。鹿児島大学教育学部附属小学校教諭・教頭。教育委員会指導主事。県総合教育センター企画課長。鹿児島大学教育学部教授、公立小学校教頭・校長。「小学校英語ハンドブック(啓林館)」「小学校英語セミナー(明治図書)」等。小学校における外国語教育について、20年以上の研究・実践を続けている。



評価は目標の裏返しですから、この目標を評価の3観点に置き換えて見取っていくことになります。文部科学省から小学校外国語の「評価の観点及びその趣旨」が、以下のように示されています。

| 観点 | 趣 旨 |
|---------------|--|
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解している。 読むこと、書くことに慣れ親しんでいる。 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けています。 |
| 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、音声で十分慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 |

3観点は常に単独で見取られるものではなく、学習内容や状況によっては複数の観点を一体的に見取ることも考えられます。

その方法としては、評価の場面や学習内容に応じて、ペーパーテストだけでなく、インタビュー(面接)、授業中の発表、子どもが書き記したワークシートや作品等のパフォーマンス評価や活動の観察などを取り入れることが有効になります。

また、下図のような子どもの自己評価カードも教師の行う評価の補助資料として活用することができます。

What do you want? 出来たよカード

年 級名前 []

今日の自分はどこかな?

○ 友達(先生)と一緒にできる ○ なんとか一人でできる ☆ 自信を持って一人でできる

| | | | | |
|------------|--|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 聞くこと | ゆっくりはっきりと話されれば、発音されたアルファベットの大文字を思い浮かべることができます。 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 読むこと | ゆっくりはっきりと話されれば、発音されたアルファベットの小文字を思い浮かべることができます。 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 話すこと(やのとり) | ゆっくりはっきりと話されれば、相手がどのアルファベットがほしいと言っているのかが分かる。 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 話すこと(先生) | アルファベットの大文字を全て読むことができる。 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 書くこと | 相手が、どのアルファベットがほしいかについて質問することができる。 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 書くこと(先生) | 自分の名前をアルファベットで書き、正しく発音し、発表することができる。 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 書くこと(先生) | 友達の発表を聞き、感想を言うことができる。 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 書くこと(先生) | 文字の大きさや形に気を付けて、大文字を書くことができる。 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 書くこと(先生) | 文字の大きさや形に気を付けて、小文字を書くことができる。 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

授業の振り返りをしよう

| 時 | 振り返り | 先生から |
|-----|------|------|
| 第1時 | | |
| 第2時 | | |

(鹿児島県N小学校 福森一真教諭 作成)

2. 具体的には…どのように

評価の3つの観点については、日々の授業の中で子どもの学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすために毎回の授業ですべてを見取るのではなくて、単元や題材などの内容や時間のまとまりごとに評価の場面を組み立てていくことが大切になります。また、この

【引用・参考文献】

- 文部科学省(平成29年)『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』旺文社
- 文部科学省(平成30年)『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』開隆堂出版

外国語の評価について

～2020年本格実施に向けた準備を～

新庄 恵子（帝京大学教職センター／教育学部・准教授）

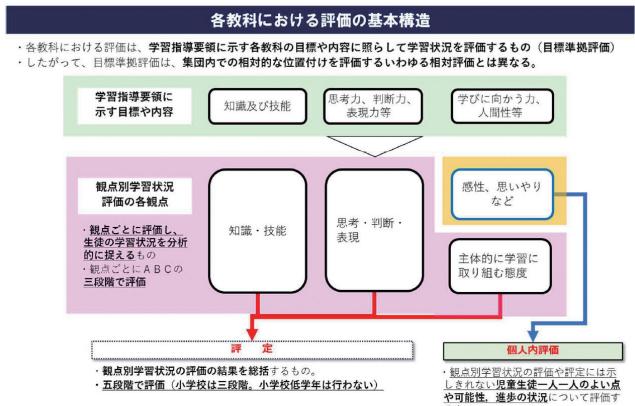
1. 評価の基本的な考え方は・・・

春は色とりどりの花が咲き、木々の芽吹きに自然の力を感じます。子供たちも新しいことにチャレンジし、多くのことを学び身に付けていく意欲にあふれています。

新学習指導要領(平成29年告示)の移行措置期間2年目になり、新学習指導要領では何がどのように変わることかということについては、すでに理解されていることと思います。来年度から本格実施となる外国語活動、外国語についても準備を進められていると思いますが、研修会等では先生方から多くのご質問をいただいている。「外国語活動、外国語は今までとどのように違うのですか。」「授業では具体的にどのような言語活動を行っていくのですか。」という授業内容に関する事から、「学級担任はどの程度英語を話せばいいのですか。発音はどうすればいいのですか。」「授業は全て英語で進めるのですか。日本語を使ってもいいのですか。」など、先生自身の英語に関する不安も見え隠れしています。特に多いご質問は、「外国語」という教科になることに伴う評価についてです。そのような中、少しでもご参考になればと思い、評価の基本的な考え方等についてお話しさせていただきます。

「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」が中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会より平成31年1月に発表されました。この中で、2020年度以降実施される新学習指導要領の下での学習評価の在り方について、基本的な考え方や具体的な改善の方向性が示されています。これまでの学習評価についての課題や教師の働き方改革等の状況を踏まえて、「児童生徒の学習改善につながるものにしていく。」「教師の指導改善につながるものにしていく。」などを基本に学習評価の改善について検討が行われました。報告の「3. 学習評価の基本的な枠組みと改善の方向性」で

は、各教科における評価の基本構造が下図のように示されています。



※この図は、現行の取扱いに「答申」の指摘や新しい学習指導要領の趣旨を踏まえて作成したものである。

出典：文部科学省「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」

学習指導要領では、各教科等の目標や内容を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の資質・能力の3つの柱で示しています。それらを踏まえ、評価を行う際には、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価します。5, 6年生の「外国語」は教科になりますので、他の教科と同様に評価を行います。教科の目標や内容に照らして学習状況を評価する目標に準拠した評価となります。

2. どのような方法で評価するのか・・・

授業では、具体的にはどのように評価を行えばよいのでしょうか。「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」で示された観点別の具体的な評価方法を右ページの表にまとめてみました。

外国語では、筆記テストの他に、インタビューやスピーチ、授業内での発表、振り返りカードによる自己評価、活動の観察など、様々な評価方法で学習状況を評価することが大切です。児童の興味・関心を高める

PROFILE

新庄 恵子 しんじょう けいこ (帝京大学教職センター / 教育学部 准教授)

東京都公立中学校教員、東京都区市教育委員会統括指導主事、学校指導課長、東京都公立中学校校長、公立小中一貫教育校校長を経て現職。これまで、東京都内の公立小学校外国語活動やALTとのチームティーチングについての教員研修の講師や、公立小中学校児童・生徒の海外派遣研修等の企画・運営に関わる。

評価の観点

具体的な評価方法の例

| |
|---|
| 知識・技能 |
| <ul style="list-style-type: none"> ペーパーテスト(事実的な知識の習得を問う問題、知識の概念的な理解を問う問題) 文章による説明など、実際に知識や技能を用いる場面を設ける。 |

| |
|--|
| 思考・判断・表現 |
| <ul style="list-style-type: none"> ペーパーテスト 発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等 |

| |
|---|
| 主体的に学習に取り組む態度 |
| <ul style="list-style-type: none"> ノート等における記述 授業中の発言 教師による行動観察 児童による自己評価や相互評価等を教師の評価の際の考慮する材料の一つとして用いる。 |

参考：文部科学省「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」

身近なものを使ってリスニングクイズやインタビューゲームなどを行うと、児童が意欲的に取り組む姿が見られます。先生方の写真や誕生日、好きな物、校庭の花壇に咲いている花の写真などなど・・・児童に親しみのある様々な素材を絵カードやワークシート等にして、共有で活用することもできます。評価方法やテスト、評価に関する教材などを実践を積み重ねる中で少しずつ蓄積し、指導者がいつでも活用できるような共有財産を作つていけたらいいと思います。

3. 英語でほめる・・・

外国語活動では、児童のよい点や進歩の状況などを積極的に評価していますが、外国語でも「Great!」「Good job!」などと、よい点や意欲的な姿を声に出してほめて伸ばすような工夫も日々の授業において必

要です。先生からの言葉かけは児童のやる気を引き出す重要なポイントです。ほめられると子どもも学びを実感し、自信や意欲につながっていきます。皆さんは英語でのほめ方をどれくらい知っていますか。

ある小学校では、「English Room」をつくり、英語を学ぶ学習環境を整備しています。教室に入るとすぐに主事さん手作りの木製の本棚に並んだ英語の絵本が現れます。また、壁面には英語のほめ言葉の掲示や、地域の伝統・文化に関わる写真や英語の解説など、身近なところから英語に対する興味・関心を高める工夫をしています。「子どもたちの学びが一層深まり、その変容が見られた時が一番うれしい。」と、先生方はおっしゃっていました。そこに評価の一つのヒントがあるように感じます。2020年はTokyoオリンピック・パラリンピック開催の年です。日本を訪れた外国人たちと子どもたちとのコミュニケーションの機会があるかもしれません。



教室掲示【英語でほめよう！】

主事さん手作りの本棚

「英語が楽しい。もっと知りたい。」と意欲を喚起できるような評価をしていきたいものです。

【引用・参考文献】

- 文部科学省(2019)中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会 「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2019/04/17/1415602_1_1_1.pdf
- 文部科学省(2018)「新学習指導要領に対応した小学校外国語教育新教材について」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/123/houkoku/1382162.htm
- 文部科学省(2017)小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック
http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503.htm

中学校の立場から評価に期待すること

～パフォーマンス評価で「知識を活用する英語」へ～

小倉弘之 (群馬県渋川市立赤城北中学校・校長)

1. 評価に振り回されない

小学校外国語活動・外国語科の評価については、悩まれている先生方も多いように感じています。実際、文部科学省からも未だ具体的な説明がない状況です(2019.5月上旬現在)。ここでお伝えしたいことは、評価に振り回されないということです。もちろん、評価は重要であることは言うまでもありませんが、評価に振り回され、評価のための評価、評価のための授業にしてしまっては本来の外国語教育の趣旨に合わないものになってしまいます。評価は本来、教師が外国語の指導を通して目指す子どもたちの姿(資質・能力)が、実際に達成できたかを確認するとともに、必要に応じて、補充・発展的な指導を行ったり、自らの指導計画や指導方法の改善に生かしたりしていくものです。



外国語活動や外国語科の学びの醍醐味は、母語とは異なる外国語(英語)を通して、様々な異文化に触れたり、他者とコミュニケーションをとったりすることの楽しさを味わうことであり、そのことを可能にするための資質・能力を系統的に身に付けさせていくことが必要となります。そして、そのために、子どもたちの学びの過程に評価を位置付け、子どもには、学びの中での

自らの状況を確認させるとともに、今後のめあてにつながるようにしていきたいものです。

2. パフォーマンス課題(評価)

外国語活動では従来通り、記述による評価を行い、一方、教科化される外国語科では、他教科と同様に数値による評価を行うこととなります。評価の観点は、3つの柱に基づいて「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点となります。

この3観点に関して、外国語活動や外国語科では、「知識・技能」は、語彙・表現や文法等の知識を活用してコミュニケーションを図ることを可能とする知識として目指されるのです。そして、「思考力・判断力・表現力」は、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、身近で簡単な事柄について聞いたり読んだりして情報を理解したり、話したり書いたりして表現したりして、情報や意図などを伝え合うコミュニケーションができる力として位置付けられています。つまり、外国語を用いて「何ができるか」が求められ、当然それが評価の対象となっていくのです。その具体的な手立てがCAN-DOリストであり、それを具体的な目的・場面・状況の中でコミュニケーションを行うパフォーマンス課題(評価)が重要な意味をもつことになります。

そこでは、実際のコミュニケーション場面やそれを想定した上で、子どもたちにパフォーマンスさせることで、「思考力・判断力・表現力」を評価することができます。また同時に、その「思考・判断・表現」をするための基礎的な力としての「知識・技能」も同時に測る

PROFILE

小倉 弘之 おぐら ひろゆき (群馬県渋川市立赤城北中学校 校長)

1964年群馬県生まれ。修士[学術]。群馬県公立中学校で13年間英語を指導。その後、沼田市教育委員会・群馬県教育委員会利根教育事務所指導主事、公立小・中学校教頭を経て現職。中学校学習指導要領外国語編(平成20年)の作成協力者。英語授業研究学会理事。主な著書に『小学校外国語「二大テーマ」に答えます～「小学校外国語不安」と「小中連携」の各地域の取り組み～』(啓林館)など。



ことができるのです。したがって、外国語科では、単元などのある程度長い区切りの中で適切に設置した時期において評価していくこととなります。

3. パフォーマンス課題(評価)の鍵

そのパフォーマンス課題(評価)を効果的に活用していくために必要となることを2点述べたいと思います。

①ループリックの作成

パフォーマンス評価を効果的に、かつ無理なく実施していくための一つの手立てに「ループリック」があります。ループリックとは、学習到達度を示す評価基準を観点と尺度からなる表として示したものです。

ここでは、文部科学省の教材『We Can! 2』のユニット2(「Welcome to Japan」)でのパフォーマンス課題例とループリック例の一部を紹介します。

●パフォーマンス課題(例)

交流プログラムで出会う海外の小学生に、自分が伝えたいと考える日本の文化(食べ物、行事、遊び)を発表しよう。

発表内容

3

日本文化についての説明や感想を伝える形容詞を選んでいる。また、単語や文を付け足して相手の理解を深める内容となっている。

2

伝えたいものを選んで調べ、日本文化についての説明や感想を伝える形容詞を選んで表現している。

1

お手本を使った発表に留まっている。

(※他に「発表(英語らしさ・積極性)」)

②ループリックを活用しての指導の工夫

ループリックができたら、それを基に学びのデザインを見直し、どのように指導・支援していくか、多くの子どもたちが3や2の段階のパフォーマンスができるかを考え、指導に盛り込みます。そうしていくことにより、指導の精度は向上し、子どもたちにとっても、より達成感のある学びになっていきます。

4. 中学校の指導・評価を変える

これまで、小学校の外国語活動・外国語科の評価について述べてきましたが、実は小学校での評価に関する実践の蓄積が、中学校に必ずや良い影響を及ぼすことを期待しています。中学校の英語指導や評価では、残念ながら未だ教科書本文の意味理解や文法理解に留まり、英語の運用能力にまで指導者の意識が本気になって変えようとしていない現状も見受けられます。従来の指導観から脱せていません。小学校でのパフォーマンス評価を中心とする評価の実践の蓄積が、説得力をもって中学校に伝わってくことで、中学校の英語教育も変わっていかざるを得なくなっていくのです。ぜひ、子どもたちと日々の外国語の学びづくりを楽しみ、実践を積み重ねていってください。

【引用・参考文献】

- ・兼重昇・小倉弘之(2019)『小学校外国語「二大テーマ」に答えます～「小学校外国語不安」と「小中連携」の各地域の取り組み～』啓林館
- ・西岡加名恵・石井英真(2019)『教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価』日本標準
- ・菅 正隆(2017)『小学校教育課程実践講座 外国語活動・外国語』ぎょうせい

パフォーマンステストと「評価」

～中学校の現行学習指導要領の観点から～

山口 常夫 (東北文教大学・教授)

金子 淳 (山形大学・准教授)

1. まだ明らかにされていない「評価」

みなさん、こんにちは！ 今日も、子どもたちと一緒に、英語を楽しんでいますか？ 教科として全面実施されるまで、一年を切りましたね。教科になる、ということですから、「評価」が気になりますよね。それでは、「評価」について、一緒に考えてみましょうか。

ご存知の通り、「評価」の具体例については、文部科学省からまだ何も公表されていません(2019年5月上旬現在)。ただ、「Fun with English 2018秋号」にも書いてあるように、「こんな感じかな？」と予想することはできるかもしれません。それは、中学校・高等学校の様子を見ることです。中学校・高等学校で行われていることが、そのまま小学校で行われることになるかどうかは、わかりませんが、ちょっと様子を見てみるぐらいの意味はあると思います。

中学校・高等学校では学習到達目標(CAN-DOリスト等)を作成し、活用しています。具体的には、学習到達目標(CAN-DOリスト等)に基づいて、授業中に言語活動を行い、単元末にパフォーマンステストなどで評価します。ここでは、スペースに限りがありますので詳しく触れませんが、パフォーマンステストとは何か、については、佐藤(2014)をご覧いただければと思います。それでは、中学校の様子を見てみましょう。

2. 授業をデザインする

現行学習指導要領に基づく教科書では、中学校1年生の後半で「過去形」を学ぶことになっています。ここでは、仮に、中学校1年生の学習到達目標(CAN-DOリスト等)が「日常のことを簡単な英語で伝えることができる」であるとします。その際、日常生活によくあ

る場面を想定して、過去形を使うような言語活動をします。例えば「夏休みの思い出」について行うとしましょう。先生は中学生に、次のように、少しずつ話しかけていきます。



子どもたちは、夏休みにしたことを、自分の言葉で、一生懸命に言おうとします。もちろん、この他にもいろいろな返事が返ってくるでしょう。それはそれでいいのです。子どもたちが、ごく自然に、自分のことを言うようにさせてあげましょう。語彙が足りなくて、十分に答えられないかもしれません。その場合、教科書や教材などを活用しましょう。この内容を、2・3時間かけて、少しずつ、進めていきましょう。



子どもたちが、自分のことを自分の言葉で言うのであれば、憶えようとしなくとも、自然に英語が口をついて出るようになります。実は、もうお気づきかもしれません、最終的に、この中学生が言ったことをつなげれば、夏休みの思い出を言ったことになります。

PROFILE

山口 常夫 やまぐち つねお (東北文教大学 教授・元山形県教育委員会教育長・山形大学名誉教授)

神奈川県出身。国際基督教大学大学院修了。山形大学から県教委を経て現職。英語教育・英語コミュニケーション・社会言語学。『言語の社会性と習得』(文化評論社),『日本文化を英語で紹介する辞典』(有斐閣),『英語学習力ウンセリング』(丸善)など。

金子 淳 かねこ じゅん (山形大学 地域教育文化学部 准教授)

秋田県出身。新潟大学大学院現代社会文化研究科修了。高等学校教員, 国立高専, 公立短大を経て現職。博士(学術)。イェール大学客員研究員。英語教育・異文化理解・英米文学。『朝倉日英対照言語学シリーズ [発展編] 英語教育と言語研究』(第6章 英語教育と評価研究 朝倉書店),『英語好きな子に育つたのしいお話365』(誠文堂新光社)など。

先生は、それを意図して少しづつ、問い合わせ、導いていたのでした。

このように、

子どもたちが、少しづつ、スモール・ステップを重ねることによって、「夏休みの思い出」が言えるようになるように、上手に導いてあげましょう。この場合、どのように子どもたちを導いていくか(「授業をデザインすること」)が大事になってきます。そして、単元末にパフォーマンステストとして、似たような内容「休日にしたこと」を実施して、評価することになります。言語活動もせず、いきなり「休日にしたこと」を言いなさい、と指示しないようにしましょう。紙に書かせ、暗記させ、言わせるようにしてもいけません。少しづつ、スモール・ステップを重ねて導いてあげれば、子どもたちは誰でも自然に言えるようになります。



I went to the mountains.
I enjoyed hiking.
I ate curry and rice.
It was delicious.

評価のポイントです

内容

- A 話の内容についての感想を、2文以上で話すことができる。
- B 話の内容についての感想を話すことができる。

正確さ

- A フルセントンスで答えることができる。
- B ショートアンサーで答えることができる。

流暢さ

- A 不自然な間を置かずに答えることができる。
- B 間はあるが、英語で伝えようとしている。

※上記評価項目に満たない場合、評価をCとする。

4. おわりに

あれ?と思われた方もいらっしゃるかもしれませんね。そうです、先ほどの中学生が言ったことは、We Can! 2のUnit 5 「My Summer Vacation」(pp.34-41.)の内容を踏まえています。だとすれば、もしかしたら来年以降、小学校6年生の夏休み後の授業は、こんな感じになるかもしれませんね。ただ、ここでご紹介したことは、あくまで、現行学習指導要領の中学校の例である、ということを忘れないで下さい(言語材料としてWe Can!を使ったに過ぎません)。まもなく、文部科学省から「評価」について正式に公表されます。

授業や評価は、

それに従って進めていくようにして下さい。

I went to the mountains.
I enjoyed hiking.
I ate curry and rice.
It was delicious.



【引用・参考文献】

- ・佐藤一嘉編著 (2014)『ワーク & 評価表ですぐに使える! 英語授業を変えるパフォーマンス・テスト 中学1年』授業をグーンと楽しくする英語教材シリーズ 東京:明治図書
- ・平木裕 (2019)「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標をベースにした単元構想~単元におけるパフォーマンス・テストの位置付け~やまがた教育振興財団 平成30年度「教員養成に関する調査研究事業」『中高連携を踏まえた、英語授業におけるアクティヴィティとパフォーマンス・テスト開発に関する調査研究 報告書』59-72.
- ・青森県教育委員会 (2018)『小・中学生英語力向上推進事業 中学校外国语科パフォーマンス評価実践ハンドブック』https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kyoiku/e-gakyo/files/gaikokugo_performance-handbook.pdf
- ・文部科学省 (2017)『We Can! 2』



みんなが輝く 小学校英語

岡山市立石井小学校「イマージョン教育」の取り組み

●読みやすい B5判 (144ページ) ●本体価格 2,000円+税

兼重 昇先生 (広島大学大学院准教授) 監修

安心や疑問がいっぱいな先生の為の授業づくりのヒントがみつかります!!

主なコンテンツ構成

第1章 小学校英語の教科化について

- ・小学校英語の教科化について
- ・従来型の外国語活動から小学校英語に繋げるために
- ・イマージョン教育とは

第4章 石井小学校のイマージョン教育

- ・図画工作の授業実践例など

第2章 授業のポイント

- ・学習、学級環境作り
- ・モーニングブロードキャストの紹介
- ・スマートトークについて

第5章 パフォーマンス評価の事例紹介

- ・パフォーマンス評価の事例紹介

第3章 岡山市立石井小学校の指導事例

- ・12事例の紹介

教科化に
対応
しています!



小学校外國語 「二大テーマ」に答えます

～「小学校外國語不安」と「小中連携」の各地域の取り組み～

- ② どうやって教えればいいんだろう・・・
② どのように中学校につなげればいいんだろう・・・

その答え この本にあるかもしれません!

小学校
外國語
教員向け
教材



新課程の外國語に対する考え方、取り組み例など、役に立つ情報が満載!



各章冒頭のオープニングで、その章の概要がわかるようになっています。

●冊子本体:B5判216ページ 本体価格:1800円(税別) ※仕様は予告なく変更することがございます。ISBN 978-4-402-093587

編集・発行 啓林館東京本部 TEL(03)3814-5183(直通) デザイン・印刷(株)スタジオヤマト・木野瀬印刷(株) 2020年度用小学校英語教科書内容解説資料